

(添付)

情報公開文書

『川崎病患者における初回ガンマグロブリン大量療法不応症例の 空間時間集積性に関する研究』に参加されるみなさまへ

川崎病に対する治療としてガンマグロブリン大量療法が確立して以後、川崎病による冠動脈後遺症の発生は著明に減少しました。しかしながら、初回のガンマグロブリン大量療法で十分な解熱が得られない患児が 15-20%みられ、このような方は発熱期間が長くなり冠動脈に病変をきたす危険が高いと言われていきます。そこで、年齢や血液検査などからガンマグロブリン大量療法への反応性を予測し、不応性が予測される高リスク患児においてはより積極的な治療方法を行うことも考えられています。このようなことから当院を含む 5 施設（神戸市立医療センター中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、明石市立市民病院、兵庫県立こども病院）が協力して、川崎病に対するガンマグロブリン大量療法が不応であった患者の地域集積性の分析を行います。今回行う研究により、ガンマグロブリン大量療法の効果が低い川崎病患者の発生に流行性があるかどうかを検証します。

これらの研究には 2013 年から 2017 年に川崎病で当院（神戸市立医療センター中央市民病院）に入院されたみなさまのデータが用いられます。この研究により、みなさまに新たにご負担いただくものではありません。また、みなさまのお名前は匿名化（数字化）されているためプライバシーは保護されています。この分析の結果を、今後の川崎病診療に活かされるべく進めさせていただきます。

みなさまにおかれましては、データ利用の目的と趣旨をご理解いただきますようお願い申し上げます。このような研究に対してご質問のある方は、下記の連絡先までご連絡ください。

<本分析の概要>

- ① 研究名：川崎病患者における初回ガンマグロブリン大量療法不応症例の空間時間集積性に関する研究
- ② 対象者：神戸市内にお住まいで 2013 年～2017 年に川崎病と診断され当院を含む 5 施設（神戸市立医療センター中央市民病院、西市民病院、西神戸医療

センター、明石市立市民病院、兵庫県立こども病院)に入院されたみなさま。

- ③ 対象となる期間：2013年1月1日～2017年12月31日
- ④ 研究目的の概要：川崎病に対するガンマグロブリン大量療法が不応であった患者の地域集積性を検証します。
- ⑤ 研究方法の概要：上記の期間の診療記録を用います。
- ⑥ 個人情報保護の仕組み：診療録データは個人を特定しうる情報は全て番号等に変換されております。そのため、分析を行う際にはみなさまの個人を特定しうる情報はいかなる形でも取り扱いません。
- ⑦ 了解を求める事項：対象者の保護者のみなさまにおかれましては、以下の内容についてご理解いただきたくお願い申し上げます。本研究では、当院を含む5施設（神戸市立医療センター中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、明石市立市民病院、兵庫県立こども病院）において川崎病と診断され入院された方の診療データを使わせていただきます。追加の検査やご負担いただくことはございません。また、他の研究対象者の個人情報の保護など支障のない範囲で、研究に関する資料を入手閲覧することができます。研究参加の辞退を希望される場合や、研究に関してご不明の点がございましたら、以下のお問い合わせ先にご一報下さいますようお願い申し上げます。

本研究に関するお問い合わせ先：

神戸市立医療センター中央市民病院小児科

研究担当者：宮越 千智

研究実施責任者：山川 勝

神戸市中央区港島南町 2-1-1

電話：078-302-4321